

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。高湿度や肥切れにより、本病が発生しやすくなるため、適切な施肥を実施し、発生初期から防除を実施してください。

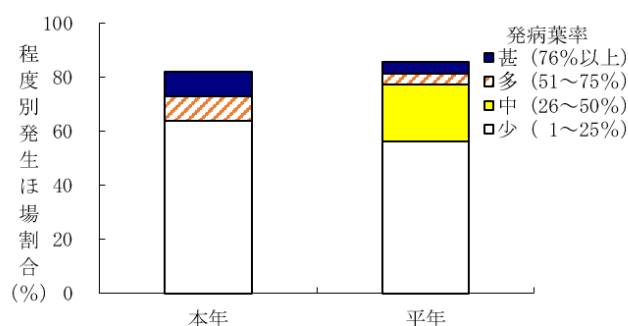


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を実施してください。

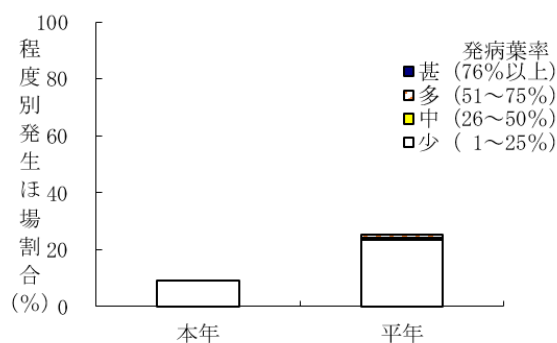


図2 うどんこ病の発生状況

3 炭疽病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。まん延すると防除が困難になるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

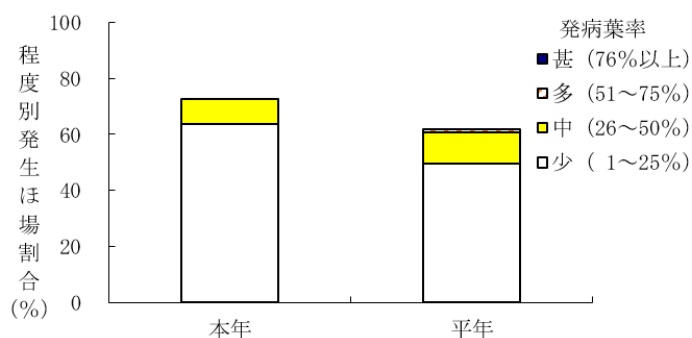


図3 炭疽病の発生状況

4 褐斑病

巡回調査における発生ほ場は、平年並でした（図4）。まん延すると防除が困難となるので、り病株は摘除し、発生初期から防除を実施してください。また、被害茎葉残さは必ずほ場外に持ち出し処分してください。

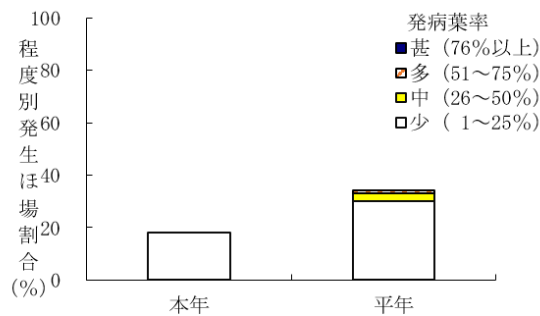


図4 褐斑病の発生状況

5 つる枯病

巡回調査による発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図5）。まん延すると防除が困難になるので、予防的防除を実施してください。発生を確認した場合、被害部分を速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分してください。

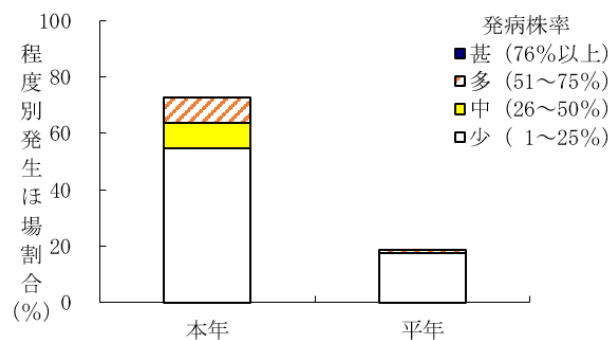


図5 つる枯病の発生状況

6 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

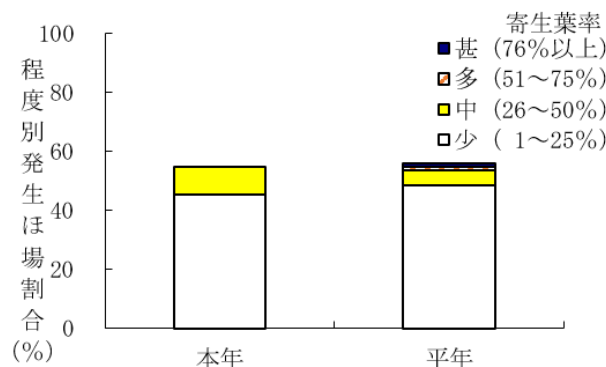


図6 アブラムシ類の発生状況

7 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でしたが、一部で寄生葉率の高いほ場が確認されています（図7）。多発すると防除が困難になるので、ほ場をよく確認し、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

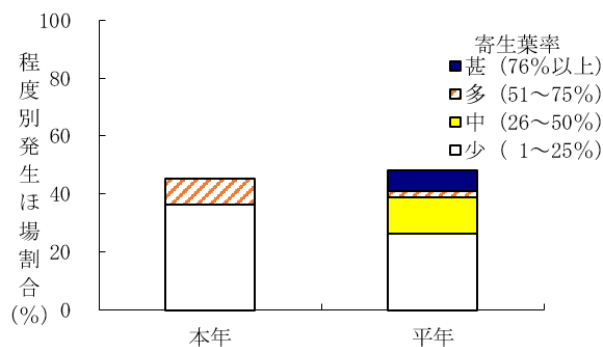


図7 ハダニ類の発生状況

8 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図8）。多発すると防除が難しくなるので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行ってください。

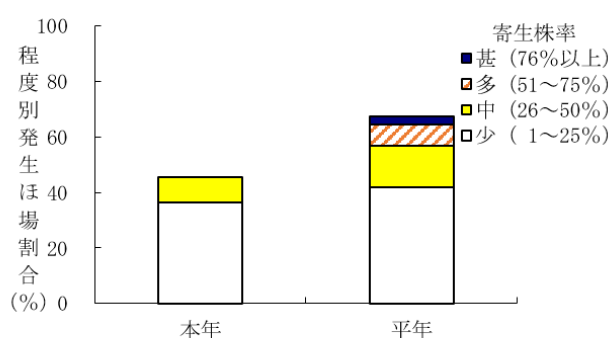


図8 アザミウマ類の発生状況

※ 夏秋露地きゅうりの巡回調査では、下記の 11 ほ場を調査しています

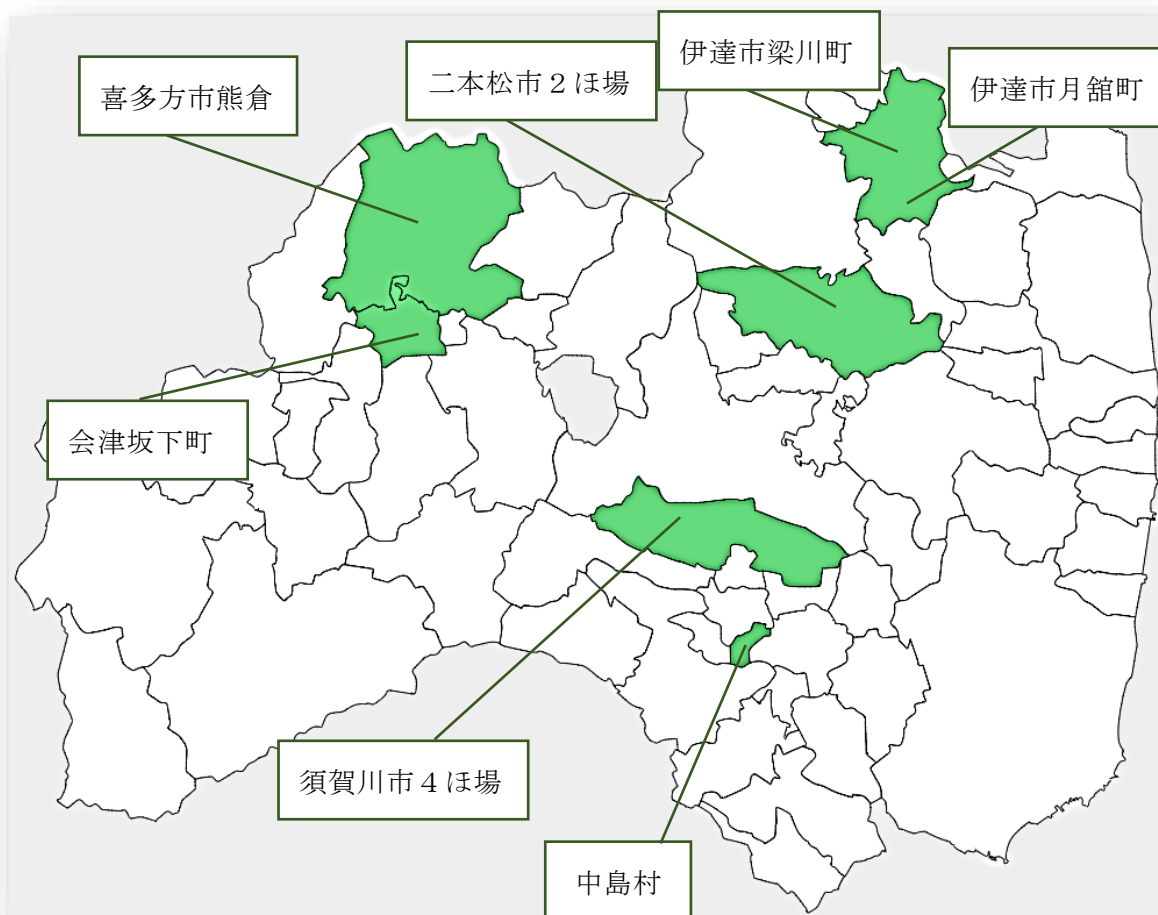


図 キュウリの巡回調査地点

※網掛け：夏秋キュウリの巡回調査地点。6 市町村、11 地点

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp